

こども青少年局が所管する外郭団体の協約マネジメントサイクル に基づく評価結果等について

本市では、各外郭団体が一定期間における主要な経営目標を本市との「協約」として掲げ、経営の向上を促進する「協約マネジメントサイクル」の取組を進めています。

27年度から各団体において取組を進めている「協約」については、横浜市外郭団体等経営向上委員会（以下「委員会」という。）を活用し、協約の進捗状況及び経営を取り巻く環境の変化への対応に関する評価を毎年度実施し、マネジメントサイクルの効果の向上及び団体経営の健全化を図っていくこととしています。

つきましては、こども青少年局が所管する外郭団体である公益財団法人よこはまユースについて、30年度においてもこれまでの取組実績を踏まえて委員会による評価を実施しましたので、評価結果について御報告します。

また、協約期間が27年度から29年度までとなっていましたので、委員会での議論を踏まえ、30年度からの「団体経営の方向性及び協約」（案）を作成しましたので御報告します。

1 こども青少年局が所管する外郭団体

公益財団法人よこはまユース

2 評価結果

(1) 26年度に定めた団体経営の方向性等

ア 団体経営の方向性

「事業の再整理・重点化等に取り組む団体」

イ 協約の期間

平成27～29年度

(2) 協約目標の取組結果（抜粋）

ア 公益的使命の達成に向けた取組(1)：地域全体で青少年を支える環境を醸成するための人材育成

取組	25年度実績	29年度実績	29年度目標	取組結果
①地域における青少年の体験活動の支援（相談、助言、啓発）並びに、講座、セミナーの実施回数増加	実施回数 1,516回 活動支援 1,366回 講座セミナー 150回	実施回数 2,334回 活動支援 2,110回 講座セミナー 224回	実施回数 1,680回以上 活動支援 1,500回以上 講座セミナー 180回以上	達成
②小学生の成長支援を目指した、放課後児童育成事業スタッフのスキルアップ	調査・研究	研修項目の体系化に基づいた、実践型研修を実施	研修項目を体系化し研修を実施	達成

イ 公益的使命の達成に向けた取組(2)：ネットワークの推進や団体の運営支援による、青少年育成活動の更なる充実や新たな取組の創出

取組	25年度実績	29年度実績	29年度目標	取組結果
①青少年に関わる人材ネットワークの拡充と既存ネットワークとの連携強化	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 1回/年	青少年に関わる人材ネットワーク会議 9回/年	青少年に関わる人材ネットワーク会議 4回/年	達成
②放課後キッズクラブ等の安定運営のための支援、事業の充実を目指したネットワーク構築	事業企画	NPO法人立ち上げに向けた相談・助言5件/年、交流会6回/年	NPO法人立ち上げに向けた相談・助言3件/年、交流会6回/年	達成

ウ 公益的使命の達成に向けた取組(3)：青少年が直接参加する活動・体験機会の提供の拡大及び、そこから得られるノウハウや課題をもとにした、指導者、育成者、関係団体等に対する中間支援機能の強化

取組	25年度実績	29年度実績	29年度目標	取組結果
①他団体と連携・協働による、青少年が直接体験できる活動プログラムの拡充	実施回数 243回 参加者数 12,321人	実施回数 613回 参加者数 36,552人	実施回数 270回以上 参加者数 16,000人以上	達成
②施設利用者の満足度の向上	各施設の満足度 育成C：91.4% 研修C：98.3% 交流C：87.3%	各施設の満足度 育成C：94.0% 研修C：98.4%	各施設の満足度 育成C：95.4% 研修C：98.5%	未達成
③他団体へのノウハウ提供等による活動支援	実施	実施	実施	達成

エ 事業の再整理・重点化等に向けた取組

取組	25年度実績	29年度実績	29年度目標	取組結果
①人材育成、ネットワーク推進、活動支援と体験事業の実施	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)の達成による、中間支援機能の発揮	公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)に掲げる目標数値により、進ちよくを確認	達成
②放課後キッズクラブや青少年施設の運営を通じたノウハウの蓄積、課題把握等	放課後キッズクラブ18か所、青少年施設3か所の運営	公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)の達成による、中間支援機能の発揮	公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)に掲げる目標数値により、進ちよくを確認	達成

オ 財務の改善に向けた取組

取組	25年度実績	29年度実績	29年度目標	取組結果
自主財源収入を平成27年度までに25,700千円/年以上に引き上げ	23,850千円	26,917千円	25,700千円以上	達成

カ 業務・組織の改革

取組	25年度実績	29年度実績	29年度目標	取組結果
事業評価の仕組み：他都市類似団体や大学の研究機関等と連携し、外部委員による事業評価を新たに実施	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成26年度事業に反映	全事業を対象に内部評価を実施(上半期、下半期の年2回) 外部評価の実施方法の検討と試行	外部評価実施方法の検討、試行	達成

(3) 30年度経営向上委員会の評価結果及び助言

評価結果	委員会助言
引き続き取組を推進	29年度までの協約目標については、施設利用者の満足度が未達成となっているが、事業の再整理・重点化等に向けた取組に関しては中間支援機能を明確にするなど、一定程度の整理が進んでいる。

(4) 評価結果を受けた所管局・団体の振り返り

<p>29年度までの協約期間中、青少年の健全育成に携わる中間支援組織として、地域・団体の活動支援やネットワークづくり、人材育成に取り組んでまいりました。</p> <p>活動によって、青少年育成に携わる人材や団体のスキルアップや活動意欲の向上、担い手の輪の広がりなどが図られました。</p> <p>協約目標については、受託する指定管理施設の一時移転の影響もあり、利用者満足度が未達成となりましたが、協約期間中高い水準で推移しており、公益的使命の達成を損なうものではなかったと考えています。</p> <p>今後も社会全体で青少年を育成する環境づくりを進めていくため、市と法人が連携しながら各事業を実施するとともに、事業の再整理・重点化に向けて、引き続き取り組んでまいります。</p>

3 団体経営の方向性及び協約案

(1) 委員会の答申概要

団体経営の方向性 (団体分類)	事業の再整理・重点化等に取り組む団体
方向性に関する意見	社会環境の変化等に対応した団体の使命・役割を果たしていくため、中間支援機能を発揮しながら、青少年に関わる人材育成や支援団体に対する取組及び放課後キッズクラブ等について、引き続き事業の再整理・重点化等に取り組むことが求められる。

(2) 団体経営の方向性等

ア 団体経営の方向性

「事業の再整理・重点化等に取り組む団体」

イ 協約の期間

平成 30～32 年度

(3) 協約案の概要

委員会での議論を踏まえ、社会全体で青少年を育成する環境づくりの視点を、協約案として盛り込むこととしました。

公益的使命の達成に向けた取組
ア 青少年の成長や課題に応じて適切に青少年と関わることのできる人材の育成
<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年育成に携わる地域人材育成のための研修・講座実施 ・ 青少年育成・若者支援に携わる事業スタッフ人材育成のための研修・講座実施
イ 青少年育成に携わる団体の活動支援（情報収集・提供、ネットワークづくり）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年育成活動のコーディネート・連携事業の実施 ・ 青少年育成に携わる団体を対象にした連絡会・交流会の実施
ウ すべての青少年・若者の成長を見守り、支える地域社会づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業において地域、学校、企業等と連携して青少年に居場所や体験活動機会を提供することによるノウハウの蓄積 ・ 青少年を取り巻く環境の変化等について一般市民への啓発を目的としたセミナー実施
事業の再整理・重点化に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年に関する調査の継続的な実施と調査結果に基づく、社会全体へのはたらきかけ ・ 法人独自の事業評価の仕組みを活用し、事業の先駆性や有効性、活動を支援する団体等の取組状況等を踏まえ、当該事業の継続、拡充、終了について検討
財務の改善に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主財源収入の増による、財政基盤の強化
業務・組織の改革
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化やニーズに対応できる組織を構築するため、職員育成計画及び採用計画を策定・実施

4 添付資料

- (1) 平成 30 年度 総合評価シート（公益財団法人よこはまユース部分（答申抜粋））
- (2) 団体経営の方向性及び協約案（団体経営の方向性に関する答申を含む）

【参考】横浜市外郭団体等経営向上委員会等について

1 経営向上委員会概要

設置根拠	横浜市外郭団体等経営向上委員会条例（平成 26 年 9 月 25 日施行）
設置目的	外郭団体等のより適正な経営の確保を図るとともに、外郭団体等に関して適切な関与を行うため
委員 (任期 2 年)	大野 功一（関東学院大学 経済学部教授）【委員長】
	遠藤 淳子（遠藤淳子公認会計士事務所 公認会計士）
	大江 栄（エフ・ブルーム（株）代表取締役 中小企業診断士）
	嶋志田 晃（横浜市立大学 学術院国際総合科学群経営学コース教授）
	田辺 恵一郎（プラットフォームサービス（株）代表取締役会長） ちよだプラットフォームスクエア（官民連携による中小企業者のビジネスコミュニティ施設）運営会社を経営
設置	平成 26 年 10 月 21 日
所掌事務	1 外郭団体等のより適正な経営を確保するための仕組み及び外郭団体等に対する市の関与の在り方に関すること 2 外郭団体等の経営に関する方針等及びその実施状況の評価に関すること 3 外郭団体等の設立、解散、合併等に関すること 4 その他外郭団体等に関し市長が必要と認める事項

2 団体経営の方向性：4 分類の考え方

団体分類	分類の考え方
統合・廃止の検討を行う団体	①速やかに廃止すべきもの
	②廃止に向け、方針期間中に残務・財産整理等を計画的に進めるべきもの
	③統合等により、現在の公益サービスの継続を目指すべきもの
民間主体への移行に向けた取組を進める団体	①市の関与を見直し、方針期間中に民間主体の経営へ移行すべきもの
	②財務状況改善後等に民間主体の経営へ移行するため、方針期間中に財務状況の改善を進めるべきもの
事業の再整理・重点化等に取り組む団体	①団体運営（公益的使命等）の実現及び財務状況の改善に向け、事業の統廃合を伴う経営改革を進めるべきもの
	②団体運営（公益的使命等）の実現強化に向け、事業の重点化を進めるべきもの
	③地方独立行政法人制度活用の検討も含め、事業の再整理を進めるべきもの
引き続き経営の向上に取り組む団体	①引き続き、現在の団体運営及び財務状況を維持するとともに、さらなる経営努力を続けるべきもの
	②団体運営（公益的使命等）に問題はないが、財務状況の改善に向けた取組を進めるべきもの
	③団体運営（公益的使命等）に問題はないが、経常損益の早期黒字化を図りつつ、今後の運営形態について幅広く検討すべきもの

平成30年度 総合評価シート

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	こども青少年局青少年育成課
協約期間	平成27年度～平成29年度（協約期間終了後の最終振り返り）		

分団 事業の再整理・重点化等に取り組む団体

公益的使命の達成に向けた取組(1)		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 上段：協約目標 下段：実績
①地域における青少年の体験活動の支援（相談、助言、啓発）並びに、講座、セミナーの実施回数増加	実績 (単位)	実施回数： 1,516回 活動支援： 1,366回 講座セミナー： 150回	実施回数： 1,666回 活動支援： 1,478回 講座セミナー： 188回	実施回数： 1,727回 活動支援： 1,513回 講座セミナー： 214回	実施回数： 1,880回 活動支援： 1,666回 講座セミナー： 214回	(目標)実施回数：1,680回以上 活動支援：1,500回以上 講座セミナー：180回以上 (実績)実施回数：2,334回 活動支援：2,110回 講座セミナー：224回
	進捗状況	-	-	順調	順調	達成
②小学生の成長支援を目指した、放課後児童育成事業スタッフのスキルアップ	実績 (単位)	調査・研究	研修実施 評価・検討	研修実施 評価・検討	研修実施 研修項目の体系化と研修企画	(目標)研修項目を体系化し研修を実施 (実績)「子どもの安全と見守り」についてのスキルを体系化し研修を実施
	進捗状況	-	-	順調	順調	達成

① 協約の取組状況

取組結果の検証
(協約期間全体を通じての振り返り)

①それぞれの地域で青少年に対して居場所や体験活動の機会を提供する人材や団体からの相談対応や講師派遣事業等の実施により、青少年の育成に携わる人材の育成を図ることができました。
②キッズクラブの運営を通じた課題の吸い上げや、交流会で得た他法人の意見を参考に、行政が行う研修だけではカバーできない、危険予知や子ども・保護者との関わり方等の実践型の研修を実施することで、放課後児童育成事業に携わる人材の育成を図ることができました。

公益的使命の達成に向けた取組(2)		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 上段：協約目標 下段：実績
①青少年に関わる人材ネットワークの拡充と既存ネットワークとの連携強化	実績 (単位)	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 1回/年	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 3回/年	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 2回/年	青少年に関わる人材ネットワーク会議 9回/年	(目標) 青少年に関わる人材ネットワーク会議 4回/年 (実績) 青少年に関わる人材ネットワーク会議 9回/年
	進捗状況	-	-	順調	順調	達成
②放課後キッズクラブ等の安定運営のための支援、事業の充実を目指したネットワーク構築	実績 (単位)	事業企画	【試行実施】 はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブ双方の交流事業 2回/年	NPO立ち上げ型キッズ支援 2か所 スタッフ交流事業 6回/年	NPO法人立ち上げに向けた相談・助言5件/年、交流会7回/年	(目標) NPO法人立ち上げに向けた相談・助言3件/年、交流会6回/年 (実績) 相談・助言5件/年、交流会6回/年
	進捗状況	-	-	順調	順調	達成

取組結果の検証
(協約期間全体を通じての振り返り)

①青少年育成に携わる施設や団体がつながる機会を創出し、それぞれの活動のノウハウ共有や情報交換等が行われたことで、青少年育成活動の底上げを図ることができました。また、その中でも、課題を抱える青少年を対象とした事業に携わる人材や団体については、事業開始から間もない担い手も多いことから、少人数での意見交換を設定するなど、担い手間の連携を強化しました。
②キッズクラブ運営により蓄積した実践知識や、人材育成研修の実施で得た現場のニーズを活かし、地域NPOが運営するキッズクラブの立ち上げ支援や、交流会の実施を通して事業の充実を図りました。

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	こども青少年局青少年育成課
協約期間	平成27年度～平成29年度（協約期間終了後の最終振り返り）		

① 協約の取組状況	公益的使命の達成に向けた取組(3)		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 上段：協約目標 下段：実績
		①他団体と連携・協働による、青少年が直接体験できる活動プログラムの拡充	実績 (単位)	実施回数:243回 参加者数:12,321人	実施回数:323回 参加者数:23,754人	実施回数:412回 参加者数:24,664人	実施回数:630回 参加者数:32,868人
		進捗状況	-	-	順調	順調	達成
	②施設利用者の満足度の向上	実績 (単位)	実施回数:243回 参加者数:12,321人	各施設の満足度 育成C:91.1% 交流C:83.9% 研修C:98.4%	各施設の満足度 育成C:86.1% 交流C:94.6% 研修C:97.9%	各施設の満足度 育成C:94.7% 研修C:97.9%	各施設の満足度 育成C:95.4% 研修C:98.5% (実績) 育成C:94.0% 研修C:98.4%
		進捗状況	-	-	やや遅れ	順調	未達成
	③他団体へのノウハウ提供等による活動支援	実績 (単位)	実施	実施	実施	実施	(目標)実施 (実績)実施
		進捗状況	-	-	順調	順調	達成
	取組結果の検証 (協約期間全体を通じての振り返り)	<p>①中間支援組織として、それぞれの団体の特性を活かしたプログラムを企画・実施することで、市内の青少年体験活動機会の拡充や充実に努め、実施回数や参加人数が増加しました。また、平成29年度からは活動の拡充だけでなく、これまでの取組のステップアップを図るため、体験活動の効果について調査・研究を実施し、青少年育成に携わる人材・団体等に周知しました。</p> <p>②それぞれの団体がプログラムを実施する前にヒアリング等を実施することで、実際の活動とのミスマッチが起らないように取り組みましたが、29年度は育成Cの一時移転により提供できるサービスに制限が生じたことから未達成となりました。</p> <p>③キッズクラブ運営法人の枠を超えた活動プログラムの合同実施など、これまでに蓄積したノウハウを提供し、市内の青少年体験機会を拡充しました。</p>					
① 協約の取組状況	事業の再整理・重点化に向けた取組		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 上段：協約目標 下段：実績
	①人材育成、ネットワーク推進、活動支援と体験事業の実施	実績 (単位)	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	(目標)現場運営で得たノウハウ・課題等を活かした中間支援機能の発揮(※【公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)】に掲げる目標数値により、進捗を確認) (実績) 公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)の達成により、中間支援機能を発揮することができました。
		進捗状況	-	-	順調	順調	達成
	②放課後キッズクラブや青少年施設の運営を通じたノウハウの蓄積、課題把握等	実績 (単位)	放課後キッズクラブ18か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ23か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ26か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ26か所、青少年施設2か所の運営	(目標)現場運営で得たノウハウ・課題等を活かした中間支援機能の発揮(※【公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)】に掲げる目標数値により、進捗を確認) (実績)公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)の達成により、中間支援機能を発揮することができました。
		進捗状況	-	-	順調	順調	達成
	取組結果の検証 (協約期間全体を通じての振り返り)	公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)に掲げる目標を着実に進めるとともに、青少年育成者・団体の自立促進や法人が直接実施する事業の見直しや、青少年に係わる調査・研究、団体の社会貢献活動のコーディネートなどに取り組みました。					

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	こども青少年局青少年育成課
協約期間	平成27年度～平成29年度（協約期間終了後の最終振り返り）		

① 協約の取組状況	財務の改善に向けた取組		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 上段：協約目標 下段：実績	
	自主財源収入を平成27年度までに、25,700千円／年以上に引き上げます。	実績 (単位)	23,850千円	24,161千円	26,614千円	24,626千円	(目標) 25,700千円 以上 (実績) 26,917千円	
		進捗 状況	-	-	順調	やや遅れ	達成	
	取組結果の検証 (協約期間全体を通じての振り返り)	平成27年度末で指定管理施設(青少年交流センター)の運営が終了し、利用料収入等が減になったことから減収となりましたが、企業等の助成金獲得や自主研修会を実施し参加費収入を得るなど、最終年度は達成することができました。						
	業務・組織の改革		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 上段：協約目標 下段：実績	
	事業評価の仕組み：他都市類似団体や大学の研究機関等と連携し、外部委員による事業評価を新たに実施	実績 (単位)	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成26年度事業に反映。	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成27年度事業に反映。外部評価に関する調査。	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成28年度事業に反映。外部評価に関する調査。	全事業を対象に内部評価を実施(上半期、下半期の年2回)し平成29年度事業に反映。外部評価に関する調査の実施と検討(2月実施)	(目標)外部評価実施方法の検討、試行 (実績) ・内部評価(上半期、下半期の年2回) ・外部評価の実施方法の検討と試行	
進捗 状況		-	-	順調	順調	達成		
取組結果の検証 (協約期間全体を通じての振り返り)	事業評価システムによる内部評価については、平成28年度に実施した外部評価に関する調査での意見をもとに様式を一部見直したことで、評価指標・達成度がより分かりやすくなりました。また、平成29年度は他都市類似団体の取組等を参考に、外部評価の実施方法について検討したほか、事業(評価)について意見を徴収し、平成30年度から策定した中期経営計画に反映しました。							
② 環境・状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理施設として運営していた横浜市青少年交流センターの廃止に伴い、代替事業として青少年の交流・活動支援事業(補助事業)が平成28年4月1日より開始され、当法人が運営しています。 指定管理施設として運営している横浜市青少年育成センターは、併設する関内ホール工事に伴い、平成29年12月～平成30年9月までの間、代替施設での運営となり、一時的に提供できるサービスに制限があることから、利用料収入等が減っています。 							
③ 経営状況	<ul style="list-style-type: none"> 公益法人移行時の繰越金を計画的に取り崩し、公益目的事業充実のために充てていたため正味財産の減が続いていましたが、計画的な人員配置や経費節減に努め、平成29年度は正味財産の減が大幅に減少しています。さらに、自主財源率の増に向け助成金獲得に積極的に取り組み、平成30年度の自主事業資金約300万円を確保しました。 							
④ 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な事業を実施する中で、中間支援組織としての必要性をふまえて、事業の見直しや新規・拡充を行い、法人の事業の再整理をさらに図る必要があります。 また、子ども・若者を取り巻く環境の変化により、健全育成に加えて、課題のある青少年への対応の必要性も増していると考えます。 							
⑤ 課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 法人の事業について、中間支援機能の観点から見直しを進めるとともに、青少年育成者・団体の自立促進、活動支援やネットワークづくりの充実、全市的な調査・研究に取組むことで、さらにその機能を強化します。 課題を抱える青少年への対応については、学校や他団体と連携することで居場所づくりなどの取組を促進していきます。 							
⑥ 協約の見直し	協約の見直しの必要性： 有 無							
	【見直しが必要な理由及び協約の変更内容】							

協
等
後

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	こども青少年局青少年育成課
協約期間	平成27年度～平成29年度（協約期間終了後の最終振り返り）		

経営向上委員会 助言

引き続き取組を推進	取組の強化や課題への対応が必要	協約の見直しが必要	団体経営の方向性 の見直しが必要
<p>29年度までの協約目標については、施設利用者の満足度が未達成となっているが、事業の再整理・重点化等に向けた取組に関しては中間支援機能を明確にするなど、一定程度の整理が進んでいる。</p>			

団体経営の方向性及び協約(素案)

添付資料2

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	こども青少年局青少年育成課
団体に対する市の関与方針	経営に積極的な関与を行う団体		

経営の方向性

外郭団体としての必要性、役割	<p>近年、家族状況や社会環境の変化、情報化社会の進展、自然・社会体験活動機会の減少など、青少年を取り巻く環境は大きく変化しており、全ての青少年・若者が健やかに成長し自立した生活を送ることができるよう、将来の日本・横浜を支える青少年を社会全体で育成する環境づくりが必要となっています。</p> <p>そのためには、行政をはじめとした様々な地域・団体が青少年の育成・支援の担い手となり、それぞれが連携しながら青少年の育成を進めていくことが重要です。しかし、地域・団体は高齢化や担い手不足、他団体との連携構築や活動ノウハウの共有など課題を抱えています。本市においてもNPO法人などが事業の運営団体を担っていますが、スタッフ育成や他団体・地域との連携などの課題については、行政と運営団体だけでは解決が難しく、運営団体の状況をよく理解したうえでサポートできる存在として、法人が役割を果たしています。</p>		
----------------	---	--	--

団体経営の方向性(団体分類)	事業の再整理・重点化等に取り組む団体	前期協約における団体経営の方向性(団体分類)	事業の再整理・重点化等に取り組む団体
----------------	--------------------	------------------------	--------------------

方向性の考え方(理由)	<p>家族状況や社会環境の変化、情報化社会の進展、自然・社会体験活動機会の減少等により、青少年が他者との多様なコミュニケーションの中で自己肯定感などを育むことが難しい状況においては、社会全体が青少年の居場所や多様な体験の意義・効果、様々な大人との関わりの中で健やかに成長できる環境づくりの重要性を理解し実践することで、すべての青少年・若者が自己有用感や自己肯定感などを育み、社会参画に向かう力を養うことが必要です。</p> <p>そのためには、青少年・若者に携わる人材や団体等が、刻々と変化する社会環境等を理解し、それぞれの地域で活動することで、未来の日本・横浜を支える人材を育成することが必要です。ユースは中間支援組織としてこれらの課題解決に取り組みます。</p> <p>様々な地域・団体が青少年の育成・支援の担い手となり、青少年を取り巻く環境や社会の変化を捉えた事業実施が図られている状態を目指すために、事業の再整理・重点化の取組として、人材育成や団体の活動支援及び青少年に関する調査等に取り組んでいきます。</p>		
-------------	--	--	--

団体経営の方向性及び協約の期間	平成30～32年度	協約期間設定の考え方	<input checked="" type="checkbox"/> 団体の中期経営計画期間 <input type="checkbox"/> 主要施設の指定管理受託期間 <input type="checkbox"/> その他()
-----------------	-----------	------------	---

協約(団体の経営向上等に向けた団体及び市の取組)

【取組の概要】	<p>社会全体で、将来の日本・横浜を支える青少年を育成する環境づくりを進めていくため、市と連携して以下のことに取組みます。</p> <p>①青少年の成長や課題に応じて適切に青少年と関わることのできる人材の育成 ②青少年育成に携わる団体の活動支援(情報収集・提供、ネットワークづくり) ③すべての青少年・若者の成長を見守り、支える地域社会づくり</p> <p>また、この取組を効果的に推進していくため、自主財源の増加や職員採用・養成計画の策定などを通じて法人の経営基盤を強化します。</p>		
---------	--	--	--

1 (1) 公益的使命の達成に向けた取組

団体の目指す将来像	青少年の成長や課題に応じて適切に青少年と関わることのできる人材の育成			
現在の取組	テーマや個々の経験に応じた講師派遣及び講座開催、受託事業におけるボランティア養成等			
協約期間の主要目標	①青少年育成に携わる地域人材の育成 ②青少年育成・若者支援に携わる事業スタッフの人材育成	29年度実績	①研修・講座等の参加者数 5,621人 ②研修・講座等の参加者数 633人	目標数値 ①5,900人 ②700人
具体的取組	団体	<p>・青少年指導員や主任児童委員、PTA等、それぞれの地域で既に青少年育成に携わっている人材が、青少年をとりまく社会環境をふまえ、青少年の成長や課題に応じて適切に青少年と接したり、プログラムを実践したりするとともに、必要に応じて関係機関・団体等と連携できるよう、テーマに応じた講師派遣や啓発講座等を実施します。</p> <p>・青少年育成・若者支援に携わる事業スタッフを対象に、スタッフの業務内容や経験、スキルに応じた講座を実施します。</p>		
	市	<p>・法人が実施する取組について、青少年育成に携わる地域人材や団体等に対して情報提供を行います。</p>		

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	子ども青少年局青少年育成課
-----	---------------	-----	---------------

協約（団体の経営向上等に向けた団体及び市の取組）

1 (2) 公益的使命の達成に向けた取組

団体の目指す将来像	青少年育成に携わる団体の活動支援（情報収集・提供、ネットワークづくり）		
現在の取組	地域や学校内で青少年育成活動に取り組む団体への相談・助言や、新たに青少年育成に携わりたいと考える団体・企業へのノウハウ提供、ネットワークづくり等		
協約期間の主要目標	①青少年育成活動のコーディネート・連携事業の実施 ②青少年育成に携わる団体を対象にした連絡会・交流会の実施	29年度実績 ①コーディネート、連携事業の実施 491件 ②連絡会・交流会の実施 9回	目標数値 ①500件 ②12回
具体的取組	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で青少年支援活動（子ども食堂や居場所づくり、体験活動など）を始める団体・企業への相談・助言や、青少年に関する地域の取組、他都市の事例などの情報収集や提供を行います。 ・青少年育成に携わる事業者への相談・助言やつながる場を拡充することで情報共有を図り、活動を支援します。 	
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の地域活動拠点、青少年関係施設、放課後キッズクラブ、困難を抱える青少年・若者の自立支援事業等において法人と連携して取組の充実を図ります。 	

1 (3) 公益的使命の達成に向けた取組

団体の目指す将来像	すべての青少年・若者の成長を見守り、支える地域社会づくり		
現在の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年・若者にとっての居場所や体験活動に関する事業のノウハウ蓄積のため、青少年の交流・活動支援事業、野島青少年研修センター、寄り添い型生活支援事業、放課後キッズクラブ運営事業等を実施 ・蓄積したノウハウを活かした青少年に携わる人材の育成、団体活動の支援 ・一般市民への啓発を目的としたセミナー実施、体験活動機会啓発チラシの作成 		
協約期間の主要目標	①事業実施によるノウハウの蓄積 ②一般市民への啓発を目的としたセミナー実施	29年度実績 ①各施設・事業におけるプログラム実施回数 557回 ②セミナー実施 年1回	目標数値 ①570回 ②年1回以上
具体的取組	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年や若者にとって安心して過ごすことのできる居場所の数や様々な体験活動の機会が多いことがその成長に寄与するという国や法人による調査結果も踏まえ、学校、地域、企業等と連携して機会の提供に取り組みます。 ・家庭環境等の理由により居場所や多様な体験に恵まれない青少年・若者にも等しくその機会が提供できるよう、他団体と連携して、その手法の検討や試行も踏まえて取り組みます。 ・社会全体で青少年育成に取り組むことの必要性について、既に青少年育成に携わる人材や団体のみならず、セミナー等の実施や広報物の作成・配布を通じて広く一般市民に啓発することで、すべての青少年・若者の成長を見守り、支える地域社会づくりに取り組みます。 	
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が実施する事業が効果的に実施できるよう、関係部署や団体等へ情報提供します。 	

1 (4) 事業の再整理・重点化に向けた取組

団体の目指す将来像	地域・団体が自立的に青少年育成活動を推進するとともに、青少年を取り巻く環境や社会の変化を捉えた事業が実施できるように、青少年に関わる人材育成や支援団体の活動支援に対する取組の一層の重点化を図ります。		
現在の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成者や団体の自立的運営に向けた相談・助言、青少年の居場所や体験活動に関する調査実施・発信、事業評価システムによるPDCAサイクル実施等 		
協約期間の主要目標	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する調査の継続的な実施 ・調査結果に基づき、社会全体へのはたらきかけ 	29年度実績 ①調査実施 年1回 ②機関誌発行 年1回	目標数値 ①年1回以上 ②年1回以上
具体的取組	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・市と連携して、青少年に関する全市的な調査を継続的に実施するとともに、調査結果について法人が発行する機関誌やHPへの掲載に加え、法人が実施する人材育成や団体支援の場を活用して発信します。 ・調査結果に基づき、広く一般市民が参加できるセミナーの開催や行政との意見交換の場の設定、他都市類似団体との結果共有等を通して、社会全体に青少年育成の必要性をはたらきかけます。 ・法人が実施する事業については、法人独自の事業評価の仕組みを活用し、事業の先駆性や有効性、活動を支援する団体等の取組状況等を踏まえ、当該事業の継続、拡充、終了について検討します。 	
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・調査テーマについて、青少年・若者支援に関わる国の動向や全市的な課題も踏まえ法人と検討します。 ・セミナー開催や意見交換の場の設定などについて、法人と連携して取り組みます。 	

団体名	公益財団法人よこはまユース	所管課	こども青少年局青少年育成課
-----	---------------	-----	---------------

協約（団体の経営向上等に向けた団体及び市の取組）

2 財務の改善に向けた取組

団体の目指す将来像		自主財源収入の増による、財政基盤の強化				
現在の取組		自主事業の参加費見直しによる収入増、市民が青少年育成に協力できる賛助会員制度や指定寄付金制度の導入、新たな助成金の獲得等				
協約期間の主要目標		自主財源の増加	29 年度 実績	26,917千円	目標 数値	28,000千円
具体的 取組	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や関係機関・団体に青少年育成の理解と協力を引き続き呼びかけ寄付を募るとともに、寄附方法の多様化を図ります。 ・実施する研修や事業を充実することで、より多くの参加者確保につなげ、自主事業収入の増加を目指します。 				
	市	—				

3 業務・組織の改革

団体の目指す将来像		社会の変化やニーズに対応できる人材の養成及び職員が力を発揮できる組織づくり				
現在の取組		契約職員や時給職員の無期雇用化に向けた諸規程の整備、職員育成計画の策定準備				
協約期間の主要目標		職員採用・育成計画の策定	29 年度 実績	計画の策定に向けた準備	目標 数値	計画の検証
具体的 取組	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成の専門組織として社会の変化やニーズに対応できるフレキシブルな組織を構築するほか、職員が最大限力を発揮できる組織を目指し、職員育成計画と職員採用計画を策定・実施します。 				
	市	—				

素案に対する横浜市外郭団体等経営向上委員会の答申

団体経営の方向性（団体分類）	事業の再整理・重点化等に取り組む団体	方向性に関する意見	<p>社会環境の変化等に対応した団体の使命・役割を果たしていくため、中間支援機能を発揮しながら、青少年に関わる人材育成や支援団体に対する取組及び放課後キッズクラブ等について、引き続き事業の再整理・重点化等に取り組むことが求められる</p>
協約及びその他経営向上に関する附帯意見	<p>協約目標については、現状の事業を進めつつ団体の使命の達成の程度を判断できる目標を設定することが求められる。</p>		